

□海外文献紹介□

大腸癌のスクリーニング：便潜  
血テストと大腸内視鏡検査の比較

Screening for colorectal neoplasms:  
A comparison of the fecal blood  
test and endoscopic examination:  
*Letsou G, Ballantyne GH, Zdon  
MJ, et al* (Dis Colon Rectum 30:  
839-843, 1987)

便潜血テストはしばしば大腸癌の  
スクリーニング検査として使われて  
おり、今回著者は大腸癌発見に対  
する内視鏡検査と便潜血テストの感  
度を比較したことを報告している。

下部大腸内視鏡検査を受けた 585  
名のうち便潜血テストも施行されて  
いた 506 名 86.5% が対象で平均年齢  
は 63 歳、男 499 名、女 7 名であった。

一般的に手に入る便潜血テストを  
用い、食事制限はしなかった。

便潜血テストが陰性であったのは  
348 名、陽性は 158 名 (31.2%) で両

群間の年齢と性において差はなかっ  
た。便潜血テスト陰性の患者の  
55.5% で大腸ファイバーが、44.5%  
で S 状ファイバーが施行された。  
一方、便潜血テスト陽性者の 76.6%  
で大腸ファイバーが、23.4% で S 状  
ファイバーが行われた。その結果、  
便潜血テスト陰性、陽性の両群の  
77% でファイバースコープは脾彎曲  
部を通過した。陽性者で盲腸へ高率  
に到達していて、検索された範囲は  
広がった。便潜血テスト陰性者の大  
腸内視鏡検査適応は鼠径ヘルニア修  
復前のスクリーニング、大腸術後の  
経過観察、肛門出血で、陽性者では  
ほとんどが便潜血テスト陽性が理由  
であった。

便潜血テスト陽性者 158 名中 16  
名 10.1% で癌が、61 名 39% でポリ  
ープが発見され、陰性者 348 名中 9 名  
2.6% で癌が、89 名 25.6% でポリ  
ープが診断された。癌やポリープの側

からみると、癌患者 25 名中 9 名  
36% が、ポリープ 150 名中 89 名  
59% が便潜血テスト陰性であった。

多数の集団では、便潜血テスト陽  
性率は 2.8~11% という報告に比較  
すると、今回の 31.2% は非常に高率  
である。前もって選択された集団で  
出されたこの数字は一般人口集団に  
はあてはまれないと著者らは述べる  
一方、今までの報告は便潜血テスト  
陰性例の検討が欠けていると指摘  
し、次のようにまとめている。

便潜血テストは大腸癌の約 60%、  
ポリープの約 40% で陽性であった  
ことになり、この成績から、著者ら  
は大腸内視鏡検査のほうが便潜血テ  
ストよりも大腸癌の発見には感度  
が高いと指摘し、便潜血テストのみに  
頼るとかなりの大腸癌や大腸ポリ  
ープを見逃すと警告している。

(愛知県がんセンター消化器内科

松浦 昭 抄)